

プリキュアが私たちに伝えてくれること

原 莉花子

本研究の目的は、プリキュアシリーズが初期から変わらずに私たちに伝えてくれることと社会の変化に応じて新たに伝えてくれることを明らかにすることである。目的のために、公式ウェブサイト、インタビュー記事、作品視聴を主に研究を行った。

表現方法の工夫として、プリキュアが顔やお腹を直接殴ることはしない、相手を罵倒する言葉や性別を抑制するような言葉を使わない、不適切な大人目線から守る、誰が見ても不快にならない表現方法が大切にされていることが明らかになった。シリーズごとに変化するモチーフは性別を意識することが少ないものに変化しており、プリキュアのメインカラーも15年続いたピンク色から変化があることが判明した。男の子キャラクターの立ち位置は初期では恋愛対象であったが、プリキュア20周年目に男の子のプリキュアが誕生した。

変わらないこととして、制作陣が初期から大切にしている「自分の足で凛々しく立つ」「自分の力で立ち向かう」「3歳から6歳の女の子たちを夢中にさせる」「大人になってから分かること」「変化を受け入れる」という軸は変化していないことが分かった。新しい部分としては、キャラクターカラーや男の子プリキュアの誕生など直観的に見ただけで分かる変化が大きいということであった。社会の変化を率先してプリキュアに取り入れて問題提起していくのではなく、多くの人々の理解を得られるタイミングで作品に取り入れることで観る人が不快にならない作品を作り続けていることが分かった。